

官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) 審査・評価委員会
 国立大学イノベーション創出環境強化事業分科会 概要

【令和 4 年度第 1 回分科会】

1. 日 時：令和 4 年 7 月 2 1 日（木） 15:00～17:30
2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第 8 号館 6F 630A）
3. 議 事：
 - （1）採択から 2 年目の各大学からのヒアリング（質疑応答）
 - （2）採択から 2 年目の各大学のフォローアップ審査結果について
 - （3）その他
4. 分科会委員 ※◎は座長（五十音順・敬称略）
 - 五十嵐 仁 一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）
 - ◎上 山 隆 大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
 - 岸 本 康 夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）
 - 本 山 和 夫（学校法人東京理科大学会長）
 - 渡 辺 裕 司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）
5. 議事概要
 - 評価方法 及び 配分案の決定方法について

下記〈採択から 2 年目のフォローアップ〉について説明し、委員から了承を得た。

〈採択から 2 年目のフォローアップ〉

・委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ (i)、(ii) に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(3)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

○基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和 3 年度の対前年比伸び率について実績値（参考として計画値も提示）【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和 3 年度の実績値（参考として前年からの伸びも提示）【財務諸表に基づき事務局が集計】

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- 計画に示した取組を着実に実施したか。
- 計画を実現するためのガバナンス強化など経営基盤の強化につながる取組を実施できたと認められる場合には、評定を高めるよう考慮する。

(2) 令和 4 年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性：

- 計画変更がされている場合、変更後の計画は具体的かつ実現可能なものか。
- 計画変更がされていない場合、直近の状況等を考慮しても計画を変更しないことが妥当であるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものではなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたと認められる場合には、評定を高めるよう考慮する。
- ・以下の場合には、事務局は委員会に対して、交付金の減額を提案する。
 - ✓ 民間資金獲得額増加の実績が合理的な理由なく著しく低い場合。
 - ✓ 観点(1)～(3)について委員によって付与される評定の総数（観点3個×出席委員数）に対し、D評定の数が過半数の場合。
- ・委員の協議により、ガバナリングボードに提示する配分額案を決定する。

●審査結果・配分額案について

令和3年度採択の4大学について、留保分を満額で配分する案となった。

【令和4年度第2回分科会】

1. 日 時：令和4年7月28日（木）15:00～17:30
2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 630A）
3. 議 事：
 - (1) 採択から3年目のアワード申請大学からのヒアリング（質疑応答）
 - (2) 採択から3年目のアワード非申請大学、前年度アワード対象大学のフォローアップについて
 - (3) その他
4. 分科会委員
第1回と同じ。
5. 議事概要

●評価方法 及び 配分案の決定方法について

下記＜採択から3年目アワード（追加交付金）＞および＜採択から3年目のアワード非申請大学・前年度アワード対象大学のフォローアップ＞について説明し、委員から了承を得た。

＜採択から3年目のアワード（追加交付金）＞

- ・委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ(i), (ii)に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(4)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和3年度獲得額の令和元年度（採択の前年度）獲得額に対する伸び（1年ごとの伸びも提示）【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和3年度の実績値及びその令和元年度実績値に対する伸び【財務諸表に基づき事務局が集計】

- ・審査観点は以下のとおりとする。（下線：アワード独自の審査観点）

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- これまでの延長線上での取組ではなく他大学を先導するような先端的な取組を実施できたか。

- 取組の結果として、採択から2年間にわたって継続的に民間資金獲得金額を増加させることができたか。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により民間資金獲得金額が伸び悩む状況に際して、新たな方策を採用し、状況を改善できたか。

(2) 令和4年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の具体性、実現可能性：

- 民間資金獲得のための取組は具体的か。
- その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。
- 採択された令和2年度以後の大学の収支全体や民間資金獲得状況の変化を踏まえ、既存の取組の拡充や新たな取組の追加により、民間資金獲得金額を令和3年度実績からさらに上積みすることが期待できる計画であるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものでなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたか。

(4) 本事業の効果：

- アワードに当該大学が採択されることで、他大学の模範となる等、政策的な効果が期待されるか。

・委員の協議により、ガバニングボードに提示する配分先・配分額案を決定する。

<採択から3年目のアワード非申請大学・前年度アワード対象大学のフォローアップ>

委員は、フォローアップ調書に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示す。また、採択から2年目のフォローアップと同じ審査観点(1)～(3)のそれぞれに関し、評定「A」(優れている)、「B」(良好である)、「C」(やや不十分である)、「D」(不十分である)のいずれかを付与する。

・各委員の所見は、事務局が集約して、「フォローアップの所見」資料にとりまとめる。当該資料は、各大学に送付し、所見に基づいた対応を求める。

●アワード申請大学の審査結果・配分額案について

アワード申請のあった令和2年度採択大学について審査し、東京農工大学に1億円を配分する案となった。